

会場が「ももねこ色」に染まる ～ももねこ様祭 2013～

7月27日～28日、竹原駅前商店街で、ももねこ様祭が開催されました。「ももねこ様」は、アニメ「たまゆら」に登場する不思議なネコのキャラクターです。

今年で2回目となるこの祭り。グッズの数やステージイベントも昨年より増え、県内外からたくさんの方が訪れました。

ステージイベントでは、声優の福井裕佳梨さん（ももねこ様役）、緒方恵美さん（沢渡珠恵役）、儀武ゆう子さん（桜田麻音役）が登場し、楽しいトークで会場を盛り上げました。

たまゆらチームと竹原チームで行ったパン食い競争では、見事竹原チームが勝利！最後は、ももねこ音頭を全員で踊り、会場は一体感で包まれました。



8月13日、竹原小学校グラウンドで、竹原第2地区協働のまちづくりネットワークによる、第1回盆踊り大会が行われました。

竹原第2地区の盆踊りは、約30年前になくなって以降、ありませんでした。しかし、今年4月の会議で盆踊りの復活を決意。準備の中心となった、ふれあい交流部会の部長、広本ルリコさんは、

「第2地区らしいことをしたいです。第2地区の初事業なので、成功させたいです。」と、意気込みを語ります。

いよいよ当日。練習の参加人数をはるかに上回る、多くの人が訪れ、踊りやかき氷の振る舞いなどを楽しみました。だんだんと踊りの輪が大

地域の絆が深まる 盆踊り大会復活！

きくなる様子に、盆踊りの運営に携わった人たちの目から感動の涙がこぼれました。

盆踊りの復活を決意してからの4か月は苦難の連続だったといえます。しかしどんなときも、熱意と知恵で乗り越えました。トラックの上でやぐらを組んだことも、「第2地区らしくていい」と笑顔で評価します。

盆踊りでは歌い手を務めた、会長の岩下和雄さんは、

「反省点は改善して来年もやりたいです。子どもたちが受け継いで、10年・20年後も続けることができればいいですね。」

と、将来の展望を語ります。

協力して成し遂げるパワーで、地域の絆をさらに強くすることができました。

平和と命の尊さ 次世代へ繋ぐ



のみなさんによる美しい歌声が会場に響き渡り、平和と命の大切さを改めて感じることができた1日となりました。

8月9日、市民館で、竹原市戦没者・戦災死没者追悼式並びに平和祈念式典が開催されました。

追悼式では、黙祷の後、実行委員長の小坂市長が、

「戦争の悲惨さを風化させることなく、次の世代に語り継ぎ、平和の確立に尽力する。」と誓いました。

毎年参列している仁賀谷祐さん（西野町）は、

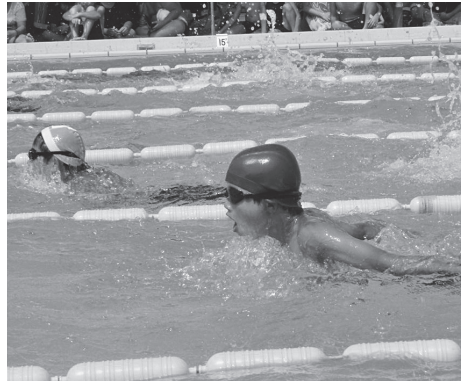
「昔戦死された方々のご冥福を祈りたい。」と、手を合わせていました。

平和祈念行事では、忠海西小学校6年の松井康晟くん（こぶせ けんせい）と、小積星那さんが、誓いの言葉を発表しました。

「友達を大切にし、希望と勇気を持って生きていきたい。戦争についてもっと学び、次世代に伝えていきたい。」と、力強く誓った後、竹原コーラス「そよ風」

泳いで 繋いで 最後まで

7月27日、大乘小学校で、第57回芸南学童水泳大会が開催され、市内や近隣に住む小学1～6年生の166人が参加しました。参加者は、記録更新を目標に、全力で泳いでいました。最後のリレーでは、頑張る子どもたちに、応援と拍手が巻き起こりました。



手作りの夏祭り 忠海天神夜市

7月27日、忠海駅前一帯で、忠海天神夜市が開催されました。会場では地域の人の手作りの夜店が立ち並び、ステージではダンスや音楽の演奏が行われました。最後は輪踊りで締めくくり、夏の夜を楽しみました。



吉名のじゃがいも料理 ナンバー1決定!

8月5日、農家レストラン西野で、じゃがワングランプリが開催されました。じゃがいも料理26品目が並ぶ中、グランプリに選ばれたのは、北中まいさん(酔心調理製菓専門学校)作のじゃがいもを麺にした「じゃがpasta!」でした。参加者はじゃがいも料理をお腹いっぱい堪能しました。



心に響く 美しい音色と語り

8月24日、勤労青少年ホームで、「人権のまち竹原」市民研究集会が開催されました。アイリッシュハープ奏者の永山友美子さんが奏でるハープの美しい音色と、言葉の大切さを伝える優しい語り、参加者はうっとりとして耳を傾けていました。



体重以上の重さに挑戦!

8月3日～4日、住吉神社周辺で住吉まつりが開催されました。

夜店やのぼりが立ち並ぶ中、「ちびっ子力まん大会」に、多くの子どもたちが参加しました。このイベントは、かつて塩の積み下ろしをしていた人が年に一度力くらべをしたことに由来するといわれ、海の祭りである住吉まつりで今も行われています。子どもたちは、5kgから50kgの6種類の重さの袋を次々に抱え、大人顔負けの力持ちを披露してくれました。



キャンベルの収穫を体験

8月14日、竹原町で竹原キャンベルの収穫体験が行われ、市内や近隣から32人が参加しました。

参加者はまず、ぶどう棚に行き、熟した房を収穫しました。実が大きいもの、実がたくさんついているものなど、それぞれの基準で選んで収穫しました。

その後、虫が付いた実などを取り除く選定作業を行いました。はさみを使う細かい作業にも、真剣に取り組んでいました。

キャンベルの甘い香りと濃い紫色の実に、参加者からは笑顔がこぼれました。